

テ ー マ	学校独自科目アウトドアと環境学習を通じた地域の課題を見いだす
学 校 名	北海道南富良野高等学校
校 長 名	能 登 啓 児
担 当 者	教頭 富 田 真 哉

1 本校のESDの特徴

南富良野町は面積の90%以上を森林が占め、その森林が地中に蓄えた豊富な水が形成する大小様々な河川が多い町である。その川の水を、主に農業への活用のために溜めているかなやま湖を有し、その湖では釣りやカヌーなどのレジャーが一年中楽しめる。特にかなやま湖とそこに注ぐ河川は、幻の魚「イトウ」が生息する川として有名である。しかし、平成28年台風の影響で、河川氾濫からイトウが生息できる環境が失われた。その後、町職員などの努力で、水生生物が生息できる環境が戻ってきた。現在では、イトウの個体数も少しずつも増加してきている。本校では、町の教育委員とともに「環境学習」と題した全学年が段階的に学習する取組を行い、イトウの生息個体数の増加を証明するデータの収集などに協力してきた。あわせて、河川を取り巻く森林の状況を理解するために全校生徒でラフティングやカヌーを実施し、町の魅力をどのように繋げていくかなどを学習する学校独自の科目である「アウトドア」を令和3年度から開始した。令和3年度には、過去の水害から5年が経過したことを契機に「一日防災学校」を実施、近隣住民への炊き出しの提供訓練や避難所運営ゲームを通じて、ボランティアの精神と地域とのつながりの重要性を学び、ESDの意識づけも行っている。

2 活動全体計画

①アウトドア授業における活動

- 環境分野：(夏から秋) 森林組合による作業見学・
エゾシカの生態について
(夏) ラフティング体験と水の行方
(夏) 野外宿泊研修を通じた生物の多様性について
気候変動分野：(秋) 軽登山と森林環境
(冬) スノーシューハイキングと冬の生物

②一日防災学校における活動

減災・防災分野：南富良野町防災の日(8/31)に防災時の地域支援などを学習

③環境学習における活動

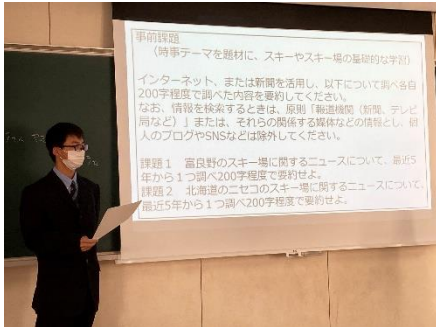
- 環境分野：1年 イトウ稚魚が生きる川のつくりについて
理解する
2年 イトウ稚魚の個体数調査と川の流れの調査
3年 イトウ稚魚個体数調査と河岸水分量の調査



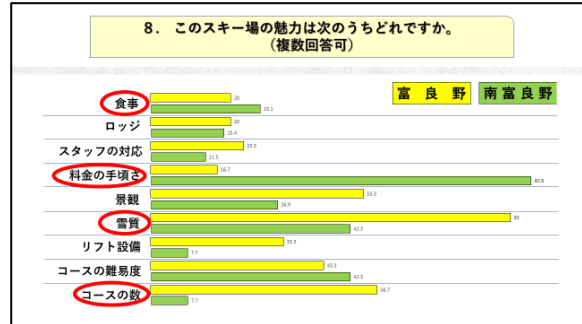
3 活動事例

①アウトドア授業における地域共生の学習

大学との連携授業を経て、町が有する国設南富良野スキー場の課題を探究、特に観光客誘致のためのアンケート調査やその調査結果に基づく考察や町への提案を行う学習成果報告会を実施した。



調査結果の発表の様子



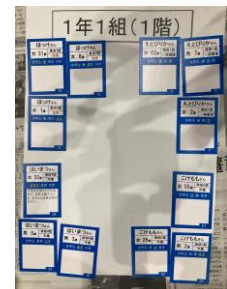
フィールドワークで得られたデータの提示

②一日防災学校の様子

8月31日は南富良野町防災の日
近隣住民におにぎり
と豚汁を提供
町内の高齢者集合住宅にも配布



北海道版避難所運営
ゲーム (Do はぐ) を
体験
様々な危機を管理する
難しさを実感



4 成果と課題

本校は「小さな学校だからこそ、できることがある」をスローガンに、様々な活動を展開している。ユネスコスクールの基本理念となるESDの中でも、環境や福祉、防災について学習し、実践することができる環境にもある。これらをメリットとして、今後もさらに地域や世界のために、小さな学校から様々な成果を発信していきたい。